

- ・協定関係 …………… (1)
- ・日本留学フェア …………… (2)
- ・留学生・日本人学生行事 … (3)
- ・地域交流事業・センターから … (4)

## ■ ヴィッツウォーターズランド大学と協定締結

南アフリカにあるヴィッツウォーターズランド (Wits) 大学は鉱山学校を母体とした1896年設立の国立総合大学であり、秋田大学と似た歴史を有しています。現在、南アフリカには1000を超える鉱山が稼働し、生産シェアはプラチナ75% (世界1位)、クロム40% (世界1位) など世界有数の鉱業国であり、秋田大学では3年前からWits大学との交流を深めてきました。

大学間協定の締結に際しては、Wits大学に知的財産権など詳細な規程があり、通常以上の時間を要しましたが、昨年9月1日付けにて協定締結ができました。

ネルソン・マンデラ元大統領を始めノーベル賞受賞者を4名輩出するなど、Wits大学の教育レベルは高く、ヨハネスブルクの校舎地下には民間企業の寄付などにより模擬坑道を建設しており、実際に近い作業環境で停電対応などを実習できるそうです。

今年4～5月にはCawood鉱山工学科長が秋田大学に訪され、教鞭を取られる予定です。学生たちの貴重な機会となることを期待されています。

(倉科 芳朗 : Kurashina Yoshiro 国際交流推進役)



校舎地下にある実習坑道 (1)



実習坑道 (2) 長さ70m

## ■ ボツワナ大使の訪問

ボツワナ共和国のJacob Dickie NKATE駐日ボツワナ大使 (ンカテ大使) が、平成26年12月2日 (火)、秋田大学を訪問されました。澤田賢一学長への表敬訪問のほか、秋田大学に留学している4人のボツワナ人留学生への面会が主な目的でしたが、当日は、久米大使顧問やツアエー等書記官等も来学され、留学生との懇談から、国際資源学教育研究センターやベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、地球資源学専攻の研究室などを見学されました。特に、留学生が取り組んでいる最新の資源学に関する研究や研究設備の説明の際には、大使自身が度々質問されるなど精力的な学内視察となりました。

また、学長との懇談では、ボツワナ共和国の発展に必要な工学や医学をはじめ、資源分野以外の新たな学術交流の可能性について話題が及びなど、秋田大学に寄せられる期待の大きさを感じることができました。

(柴山 敦 : Shibayama Atsushi 国際資源学部 教授)



先頭右から2番目: ンカテ大使

## ■ ブカレスト大学学長一行の訪問

平成26年11月4日から11月6日に、大学間協定を締結しているブカレスト大学から、Mircea Dumitru 学長、Gheorghe Vlad Nistor教授会会長、Vasile Romulus Brincoveanu 哲学部学部長、Anca Focseneanu日本語学科長一行が、表敬訪問されました。本学では澤田賢一学長を中心に関係者が集まり、今後の更なる交流のための具体的な話し合いが行われました。そして、秋田大学からゆかた20着が寄贈され、ブカレスト大学で主催される日本文化祭に利用されることになりました。平成22年に大学間協定が締結されて以来、双方共に途切れることのない学生交換交流の実績を残し、ブカレスト大学の学生にとっては本学が最も人気の高い留学先だという説明を受けました。一行は、現在本学に留学中のブカレスト大学生3名、本学から昨年留学していた1名と来年留学予定の1名とも有意義な時間を持ちました。その後は角館にご案内し、秋田の文化遺産も楽しんでいただきました。また、夜には大学主催の懇親会が開かれ、両大学の今後の関係強化が約束されました。

(Emma Morita : 教育文化学部 教授)



右から2番目: ミルチャ・ドウミトゥル学長

## 日本留学フェア特集

平成26年度、国内では東京、大阪、岡山の計3カ所、国外ではモンゴル、インドネシア、アブダビ、ベトナム、バングラデシュ、マレーシアの計6か国で留学フェアに参加しました。

### アブダビ「ナジャフェア」

平成26年10月29～31日にアラブ首長国連邦の首都アブダビで開催された、大学進学や企業就職に関する情報交換会に参加しました。留学生増加を目的に、経済産業省主体で日本パビリオンが設けられ、14の大学等機関が参加しました。日本文化に触れることのできる展示企画が盛り込まれ盛況でした。一方、米国大学群のずらりと並んだ対面個別相談窓口列は対照的で、お祭りの雰囲気は微塵もなく、厳しい大学間競争の存在を感じました。産油国であるにも関わらず、高校生の興味ある学問や職業が非資源分野であったことが印象的でした。資源開発系の留学生があまり望めないことがわかり残念でしたが、日本の大学や語学教育機関と留学生受け入れの体制や経験に関する情報交換ができました。また、現地高校や日本大使館へ訪問する機会が設けられ、日本との関係を知るよい機会となりました。短期間でしたが、留学生の受け入れ環境に関する貴重な知識を学ぶことができました。



(尾西 恭亮 : Onishi Kyosuke 国際資源学部 助教)

### バングラデシュ

平成26年11月22日・23日、バングラデシュで日本留学フェアが開催され、秋田大学から国際課主査 伊藤昌之氏、工学資源学研究所 坪井ひろみ先生、カピールの3名が参加しました。また、日本からは秋田大学の他、京都大学の参加がありました。

22日は首都ダッカのダッカ大学に伺い、秋田大学の教育システムを中心に、学内の様子、奨学金、寮生活や生活費、そして、日本や秋田の文化について簡単に説明をしました。その後、会場外の特設ブースで学生対応をしました。翌23日はダッカから約240km南東にあるチッタゴン工科大学へ伺い、同等の説明をしました。説明後の学生からの質問は多岐に渡り、活発な質疑応答タイムになりました。

フェア2日間で秋田大学のブースには約300人の学生が訪れ、日本留学への関心の高さがうかがわれました。今後も、このようなフェアに参加することをきっかけに、秋田大学の留学生が増えることを期待しています。



(Kabir Mahmudul : 大学院工学資源学研究所 講師)

### ベトナム

国際交流センターは今年度も恒例のベトナム日本留学フェアに参加しました。11月15日にハノイ、16日にホーチミンの日程で日本の他大学とともに会場にブースを設置し、日本留学希望の学生からの相談に応じました。両会場の来訪者は各50名程度でした。

ハノイでは現地大学日本語学科の学生がほとんどで、大学院で学べることについての質問が多かったのに対し、ホーチミンでは地元のドンズー日本語学校の学生が大半で、本学理工学部の土木、機械に関連する質問が多く寄せられました。また、文系に関しては両会場とも経済、心理に関するものが目立ちました。

ホーチミンではドンズー日本語学校の夕食会にも参加しましたが、ベトナム人学生の日本で勉強したいという熱意をひしひしと感じることができました。近年、本学でもベトナム人留学生は定着してきていますが、日本への熱い関心を知ることができたという点で、自分自身としてもたいへん得ることが大きかった体験でした。



(長谷川 章 : Hasegawa Akira 教育文化学部 教授)

### マレーシア

11月29日(土)から11月30日(日)の日程で日本留学フェア(マレーシア)に参加しました。国際教育展:マレーシアの中にJASSOが統括する日本パビリオンが設置され、32の大学のほか、日本語教育機関等が各自ブースを出し大学等についてPRを行いました。初日は、約60名、2日目は約30名程度の学生が本学のブースを訪れ、学べる専門科目の内容、宿舍、授業料、奨学金、入試に関する質問が多数ありました。全体的に理工学部電気電子工学科を志望する学生が目立ちましたが、今年度新設の国際資源学部についても積極的にPRを行いました。フェア終了の翌日は、交流のある現地の日本語教育機関(マラヤ大学AAJ、帝京マレーシア日本語学院)を訪問し、物理、化学の授業の見学をしました。授業は全て日本語で行われ、日本の高校と同じ日本語スピードで授業が進められていることに大変驚かされました。より多くの優秀な学生が本学に入学することを期待します。



(高橋 幸江 : Takahashi Yukie 国際課留学生交流・支援担当)

## 平成26年度第2回秋田大学留学説明会

12月17日、協定校への留学を希望する学生を対象に、海外留学説明会を開催しました。留学の手続きに関する説明、留学体験発表、留学生からの協定校紹介、また、官民協働留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN～についても情報を提供しました。

私は2013年の1月からの約一年間アメリカのセント・クラウド州立大学に交換留学しました。

アメリカでは、全世界から様々な人が留学し、その多くが流暢に英語を話し、他の留学生のように英語を話せない自分に苦悩することもありました。しかし、英語を話せることは、もちろんコミュニケーションにおいて大事な要素の1つではありますが、発音が違っていても、文法が間違っている、自分の意見を持ち、それを伝えようとするのが大事なのだということを知ることができ、そこから自分の英語を誇りに思い、話すよう努力しました。結果、自らの英語力も伸びていったように思います。

留学して経験した全てが今の自分につながり、留学前より大きく成長できたと思います。自分の留学に協力していただいた多くの人に感謝しながら、さらに成長していきたいと思えます。



(小野寺 暁人: Onodera Akihito 教育文化学部国際言語文化課程4年次)

## 平成26年度留学生修了パーティー

1月29日(木)、留学生の卒業・修了を祝う記念パーティーを開催しました。2015年3月に卒業・修了を迎えた留学生は全部で50名。このうち26名がパーティーに出席し、在學生や教職員、留学を支援して下さる団体の方々との懇談を楽しみました。

韓国に興味があるコリアサークルの友だちとの最後の思い出を作るために企画をつくってもらいました。その企画というのは、コリアサークルの友だちが秋田文化を体験することでした。旅は12月の末に始まりました。色々なところに行きましたが、一番気に入ったところは秋田県の角館でした。昔の武士家が今までよく保存されているところでした。角館は桜の季節に美しい景色で有名な都市です。桜が満開の時にいったことがありましたが、雪に囲まれた角館の武士家はとても美しかったです。桜の時は混んでいてにぎやかでした。雪の角館は人がいなくて寂しい雰囲気にも囲まれて不思議な気持ちでした。角館は秋田の旅行を考えている人にお勧めしたいぐらい、とても忘れられないところだと思います。



(キム ヘウォン: Kim Hyewon 教育文化学部 特別聴講学生)

## もちつき

12月19日(金)秋田大学生協食堂で、留学生体験事業「日本のもちつき」を実施しました。

当日は、毎年お手伝いしていただいている三吉南・田中・大沢の町内会のみなさんに協力していただき、本学の留学生、研究者とその家族、教職員らで臼と杵を使っての「もちつき」、できあがった餅でお供え・大福・きなこもち作りを体験し、みんなで「お餅」をおいしくいただきました。

研究室のみなさんにも食べてもらいたいと持ち帰る学生も多く、できあがったお餅は、すぐに売り切れてしまいました。  
(国際課留学生交流・支援担当)

## スキー合宿

1月31日(土)・2月1日(日)の2日間、田沢湖スキー場で留学生スキー合宿を開催しました。雪が降らない南国出身の参加者も多く、参加者20名中17名がスキー初体験者でした。大学職員5人の引率者で指導を行い、初日は穏やかな日差しのゲレンデでしたが2日目は猛吹雪にみまわれ、過酷な状況の中みなさん体全体で雪を満喫し、リフト

を何度も止めながらも根性でゲレンデを上下している間に、ほぼ全員が初級コースを一人で滑れるまでに上達していました。

夜は秋田大学乳頭口ロッジに宿泊し日本屈指の名湯を満喫し、所属学部を超えた交流も楽しみました。

来年も開催予定ですので、留学生・日本人チューターの皆さん、またぜひ参加してください。

(国際課留学生交流・支援担当)

## 上桧木内の紙風船上げ

2月10日留学生たちと一緒に冬祭り「上桧木内の紙風船上げ」を見学しました。大雪が降っていましたが、楽しかったです。会場が賑やかで、真冬の寒さが全然感じませんでした。巨大な紙風船に武者絵や美人画などが描かれて、夜空に打ち上げるのは本当に美しかったです。きれいな雪と遠く舞い上がった紙風船は夢まぼろしの世界のようでした。私も紙風船に願い事を書きました。空に私の声が届くように願います。これは秋田の留學生生活のいい思い出になりました。

(馬 麗園: Ma Liyuan 教育文化学部 特別聴講学生)

## 附属中学校の職場体験

平成26年12月4日、附属中学校1年生4名が国際課で職場体験を行いました。国際課での業務について簡単に説明した後、本学の協定校がある国の場所を調べ、世界地図に国旗を貼る活動をしました。ゲーム感覚で楽しみながら、本学が世界各国と幅広くつながっていることを実感してもらえたと思います。また、留学生に秋田の冬を紹介するポスター作成では、写真や英語表記を用いて分かりやすいものに仕上がりました。完成した世界地図およびポスターは多文化交流ラウンジ前に掲示しています。

(国際課国際企画担当)

## 秋田地域留学生等交流推進会議

本会議は、秋田県内における留学生の受け入れや交流活動を含めた国際交流の推進を図るために組織されています。平成26年12月3日に今年度の国際事業報告を交えつつ、来年度の会議運営について話し合いました。会議後は留学生との懇親会が行われ、参加留学生（国際教養大学・ノースアジア大学・秋田県立大学・秋田工業高等専門学校・秋田大学所属）がスピーチし、終始和やかな雰囲気です。大学の学生と交流を深める良い機会となりました。

(国際課国際企画担当)

## 北東北国立3大学学生合同合宿研修会

平成26年11月22日・23日青森県弘前市の岩木山青少年スポーツセンターにおいて、秋田大学、弘前大学、岩手大学の3大学の約100名（留学生62名、日本人学生33名）で、学生合同合宿研修会を実施しました。秋田大学からは「多文化間交流論Ⅱ」の受講生35名（うち留学生31名）が参加。合宿では少人数グループでの交流ゲームなどで交流を深め、写真紙芝居作りの課題に取り組み、多文化的視点から物事を見る練習をしました。

(宮本 律子：Miyamoto Ritsuko 国際資源学部 教授)



## 着任のあいさつ

昨年(平成26年)12月に着任した佐藤哲也と申します。文部科学省からの出向で、いままでも、主に国際関連の業務を担当していました。国外における大学設置案件・途上国における初等教育の普及支援など、外務省と連携して進める仕事があれば、大臣・事務次官に随行して海外出張・国際会議に出席するような責任の重い業務もありました。また、昨年まで在ベトナム日本大使館に出向し、ベトナムにおける日本語教育普及や、日本留学の広報などを行っていました。

大学での国際業務は初めてなのですが、霞ヶ関での経験などを活かしながら、地域に根ざし世界を目指す「国際化」(“澤田ビジョン2014”より)に貢献していきたいと思っております。

(佐藤 哲也：Sato Tetsuya 国際課長)



## 国際交流センター人事情報 (12月1日付)

【着任】  
国際課長 佐藤 哲也 (文部科学省国際統括官付専門職)  
【兼務解除】  
国際課長 高橋 康弘 (副理事 (国際担当))

## 専任教員よりひとこと

先日、秋田大学「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)の一環として、潟上市豊川地区で行っていたプロジェクトワークを終えました。本プロジェクトでは、2012年に閉校された豊川小学校跡地にできた潟上市多目的施設において、留学生33名、日本人大学生16名が、小学校の元教員、元生徒に聞き取り調査を行い、その結果を冊子としてまとめました。調査を通して、豊川地区では小学校が「世代を超えた交流の場」、「地域の歴史・文化を継承する場」であり、住民がそこで暮らしていく上で「精神的な支え」になっていたことが分かりました。2015年1月、文部科学省は約60年ぶりに公立小中学校の統廃合に関する基準を見直し、各自治体にクラス数の少ない学校の統合・廃校を促しました。小学校の閉校が地域にどのような影響を与えるのか、また留学生、そして地域の大学はそこにどのように関わることができるのか、今後も活動を通して考えていきたいと思っております。

(平田 未季：Hirata Miki 国際交流センター 助教)

## 国際交流協定校情報

大学間協定 (合計29ヶ国・地域：55大学等) 部局間協定 (合計9ヶ国・地域：16学部等) (2015年2月1日現在)

## 秋田大学の留学生数

合計194名 学部生：84名 大学院生：51名 交換留学生・研究生等：59名 (2015年2月1日現在)